

全国農協婦人部大会健康部会に参加して

魚津市農協婦人部加積支部 伊 東 夏 子

私は、全国大会の健康問題に参加いたしました。

各県に於ける農村婦人の健康調査の状況発表が行なわれ、厚生連との関連を手取る様にきました。その席で未だに厚生連の設置されていない県の人達が切実に「これから厚生連を作りたいが、どの様に婦人部が働きかけたら良いか」と、訴えられ、全国で20数県も厚生連の設置されていない県があるのを知りました。その点、富山県は、大変恵まれ、高岡と滑川に大きな病院が2つもあり、私達農村婦人部と連繋を保ちながらいろいろと日頃お世話になり、御協力頂いている事を感謝している次第でございます。

また、健康部会の助言者より、皆さん方は「厚生連をどうしたら作れるか」よりも、組織の中で一人一人が健康問題に自覚を持つには「どうしたら良いか」を考えてみたらと話されました。先ず、健康は私達の生活をめぐ

るすべての基本で、自分の健康は自分で守る心構えがなくてはなりません。日頃の健康状態を記録して、受診の際は持参する様に努力する必要があると思います。日本人の平均寿命も51年では、男72.15才、女77.35才と、ずい分長生きする様になりました。この長生きも健康であってこそ価値があると思います。その為には、しのび寄る成人病を防ぎ、老化現象を少しでも防ぐ様に心掛けることが大切だと思います。尚、地区で行なわれる健康調査に参加される方々が、まるで役員の顔を立てる為とか、人がするからといった考えが多分にあります。これからは部員の皆さんとの話し合いの中で自覚して頂ける様にもって行き、一人でも多くの方々に納得してもらえる様に働きかけるのが私達役員の責務であると思いました。

今一度反省を新たにして「頑張らなきゃ」と思う今日此の頃でございます。